

## 2015年度 学生懸賞論文の総括

本年度の学生懸賞論文は、36編の応募がありました。学部ごとには、経済学部21編、社会学部9編、国際教養学部3編、経営学部2編、法学部1編でした。応募総数は、残念ながら昨年度を下回る結果となり、100編余の応募年度があったことを振り返ってみるとある種の危機感を抱きます。

応募論文については、学生論集刊行委員会が予備審査を行った後、応募学生の所属ゼミ担当教員以外の教員による本審査が行われました。その結果、26編が予備審査を通過し、本審査を経て、最終的に佳作1編、準佳作2編が入選となりました。

入選作3編は、①明確な問題意識のもとに自らの研究課題を設定し、②膨大な量の資料収集や調査を行い、それらを詳細に分析したうえで、③自らの主張や見解を論理的かつ客観的に述べており、④募集要項（書式等）に従って書いたという点で共通しており、これらの点については各審査員から高い評価を得ています。

一方、残念ながら選外となった論文については、解明すべき問題が不明瞭で注記や引用文献に不備があるなど、論文としての基本要件が欠けているという問題が指摘されます。また、インターネットからの剽窃、切り貼りといった著作権侵害に等しいものも見られます。学生の皆さん、専門演習等の場で、論文を書く訓練をさらに磨いて、積極果敢に挑戦してください。

この『学生論集』は、数えれば本年度で第31号になり、実に本学の良き伝統の一つと誇るものです。学生全員の向学心とチャレンジ精神及び具体的かつ丁寧な取り組みが、この制度を支え、さらに一層発展させていく力となります。今回応募してくれた学生諸君一人ひとりに感謝するとともに、来年度以降の応募がますます増えることを期待しています。

最後に、本論集の刊行に至るまで、学生の応募論文を指導され、また本審査の依頼をご快諾くださいました諸先生方をはじめ、庶務課、教務課、研究支援課の皆様にも多大なご尽力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

2016年3月

学生論集刊行委員会

過 放 (社会学部)

野尻 亘 (経済学部)

竹原 憲雄 (経済学部)

櫻井 結花 (経営学部)

串田 久治 (国際教養学部)

松村 昌廣 (法学部)